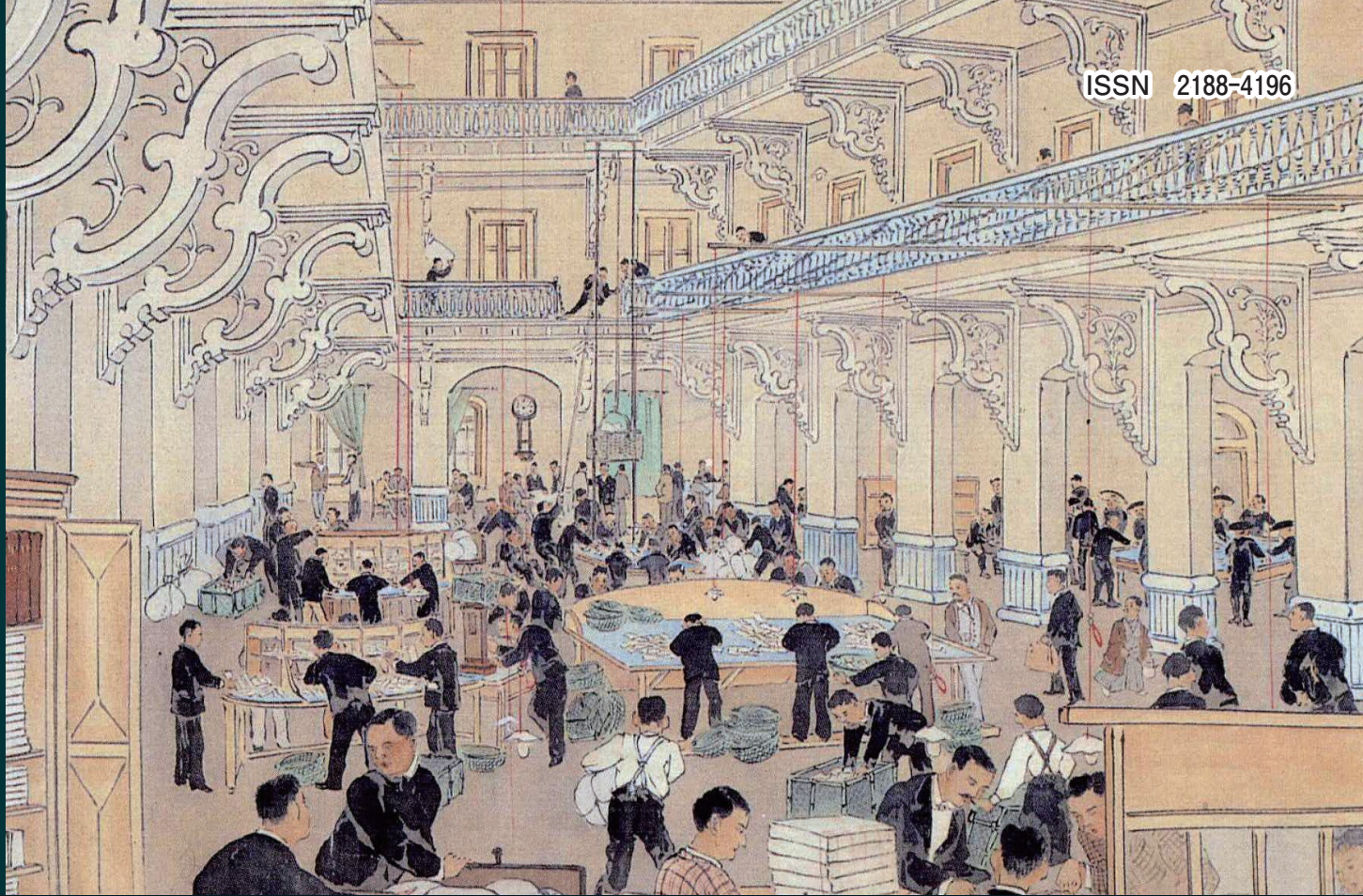




郵政博物館
研究紀要

郵政歴史文化研究会編

郵政博物館 研究紀要

平成28年度 第8号 (2017年3月)



平成28年度 第8号 (2017年3月)

表紙解説

「郵便現業絵巻」（郵政博物館収蔵） 卷子本 上下2巻

「郵便現業絵巻」は、明治26（1893）年にアメリカ合衆国シカゴ市においてコロンブスのアメリカ到達400年を記念して開催された「コロンブス世界博覧会」に出品するために制作されたもので、作者は明治時代に活躍した日本画家の久保田米僊（^{べいせん}1852-1906）である。この絵巻は、上下2巻の卷子本（巻物）になっており、上・下巻各6場面ずつ計12場面の構成となっている。

上巻は、明治25（1892）年4月に完成した東京郵便電信局における郵便物取扱の様子など、下巻は局外での作業状況などが描かれている。

第一図 東京郵便電信局の郵便物配達区分室

東京郵便電信局は、赤坂離宮など宮廷建築を多く手掛けた片山^{とうくま}東熊（1854-1917）の設計により建てられた。当時の郵便局舎としては斬新なネオ・ルネサンス様式の洋風建築物で、内部は3階までの吹き抜け構造となっていた。広大な郵便物配達区分室の中で、数多の局員が収集引受郵便物の検査、押印、取揃等様々な作業を行っている。各階には手動で郵便物を運ぶリフトも見える。右端の部屋では郵便外務員が配達準備を行っている様子が描かれている。

第二図 東京郵便電信局の郵便窓口ロビー

東京郵便電信局には多くの客が訪れ、それぞれの窓口で局員が応対している。テーブルの上で書類に記入している人、ベンチでくつろいで喫煙や談話をしている人たちなど、さまざまな来客の様子が描かれている。来客の服装も和洋様々で、当時の服飾文化をうかがい知ることができる。入り口からは人力車や通行人が往来している外の様子も見える。